

黒住教 お日の出を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くす ふるさと・イキイキ・だより

発行：黒住教本部 岡山市北区尾上神道山 TEL:086-284-2121 FAX:086-284-4756 http://www.kurozumikyo.com/



薫風の中を“山のぼり”する約150匹の鯉のぼり

五月四日から五日にかけて、第三十一回「まることキッズ・フェスタ(略称まるフェス)」が霊地神道山を会場に開催されました。かつて夏休みに開催されていた「まることサマーキャンプ」を、保護者からの要望を受け、日程を変更して開催するように

「まることキッズ・フェスタ」 五月四日・五日

五月四日からは眠い目をこすりながら、教主様のご先達で御日拝に参拝。続く「子ども健康まつり」に参加しました。子どもたちの元気いっぱい笑顔が印象的な一泊二日間となりました。皆様のご家族も、ぜひ

バーベキューの夕食を口いっぱい頬張っていました。夕食後は寸劇「宗忠さま」を観劇、映像と実演を交えたクイズ形式の寸劇に解答者も頭をひねり、続いてのビンゴ大会では大興奮。



大教殿の教場でゲームを楽しむ子供達

ひ来年の「まるフェス」に参加してみませんか。神道山ならではの楽しい思い出がたくさんできますよ。
また、八月十五日〜十七日には、小学五年生から高校生までを対象とした第二十三回「まることキッズ・フェスタ」(略称まるキャンプ)が開催されます。キャンプ場での野外活動を中心とした楽しい行事です。一人でも多くのご参加をお待ちしています。くわしくは行事課までお問い合わせ下さい。

しんとう 神道山からのお知らせ(平成二十一年八月〜十二月)

- 黒住教本部の主な行事*
 - 八月十五日(土)第二十三回まることキッズ・フェスタ(十七日まで)
 - 小学五年生から高校生を対象とした二泊三日のイベントです。期間中実際にキャンプ場に行き一泊します。参加ご希望は本部までご連絡下さい。
 - 九月二十三日(水)午前十時三十分 秋季祖霊祭
 - 十月十一日(日)午前十一時 第六十回献茶祭(添え釜茶席午前九時〜午後四時)
 - 五流派(表千家流・裏千家流・速水流・数内流・武者小路千家流)のお家元が交代で献茶奉仕をされる献茶祭です。本年の献茶奉仕は表千家流です。
 - 十月十八日(日)・二十四日(土)・二十五日(日)午前十一時 立教百九十五年・神道山遷座三十五年記念祝祭
 - 昭和四十九年十月に立教の地である大元より、お日の出を求めて遷座して三十五年。秋の祝祭は一年を通じて最も多くのお道づれがご参拝されます。
 - 十二月二十一日(火)正午 冬至大祭
 - 三大祭の一つです。教祖宗忠さまのご誕生も、黒住教の立教の日も冬至(旧暦の御日拝の時でした。古来重んじられてきた冬至の日には、黒住教にとって特別な日なのです。
 - 十二月三十一日(木) 大祓除夜祭
 - 一年間の罪けがれを祓う、その年最後の神事です。
- 大元・宗忠神社の主な行事*
 - 八月六日(木)・七日(金)午後六時 七夕まつり
 - 仙台の七夕飾りを「お嫁入り」いただき参道に飾り付けます。境内は美しく飾り付けられた竹林となつて、ご参拝の皆様をお迎えします。
 - 八月二十二日(土)吉備楽十六日会総会発表演奏会(大元・武道館)
 - 十一月二十二日(日)午前十時 青年連盟チャリティーバザー(大元・武道館)
 - 十二月二十二日(火)午後三時 冬至祭
 - 神道山大教殿の「冬至大祭」に引き続き行われます。
 - 十二月三十一日(木) 大祓除夜祭
- 神楽岡・宗忠神社の主な行事*
 - 十一月三日(火)午後一時 秋季例大祭
- 神道山ついでに御日拝のご案内*
 - お日の出の郷「神道山」では、毎朝「お日の出の時刻」二〇分前より、日拝所で「御日拝」を執り行っています。
 - 御日拝：毎朝のお日の出を迎える神事です。どなたでもご参拝いただけます。ぜひ一度お参り下さい。
 - 毎月「日」の「ついでに御日拝」には、多くの方がお参りになります。
- 「ついでに御日拝」の開始時刻は左記の通りです。

七月一日	午前四時三十分
八月一日	四時五十分
九月一日	五時二十分
十月一日	五時四十分
十一月一日	六時〇五分
十二月一日	六時三十分
一月一日	六時五十分

これからは、心を豊かに養うとき「心身の健康のために」

養心塾「道のいろは」のご案内

○お日の出の郷「神道山」心洗われ英気が養われる御日拝
○緑あふれる神道山四季折々の豊かな自然に気持ちもゆったり
○開運への入口「養心塾」黒住教は開運の宗教です。より幸せな人生を！
〈対象者〉黒住教信仰の心が浅い方。お道づれ(信仰者)に限らず広く一般の方々も参加できます。
※白上衣購入実費別途三〇〇〇円
参加費(宿泊費・食事代)九割一〇、〇〇〇円
《期間》秋のコース(春のコースもあり)
①の講 九月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日)
②の講 十月二日(金)・三日(土)・四日(日)
③の講 十月六日(金)・七日(土)・八日(日)
④の講 十月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
⑤の講 十月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
⑥の講 十月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑦の講 十月二十二日(金)・二十三日(土)・二十四日(日)
⑧の講 十月二十六日(金)・二十七日(土)・二十八日(日)
⑨の講 十月三十日(金)・三十一日(土)・十一月一日(日)
⑩の講 十一月三日(金)・四日(土)・五日(日)
⑪の講 十一月七日(金)・八日(土)・九日(日)
⑫の講 十一月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日)
⑬の講 十一月十五日(金)・十六日(土)・十七日(日)
⑭の講 十一月十九日(金)・二十日(土)・二十一日(日)
⑮の講 十一月廿三日(金)・廿四日(土)・廿五日(日)
⑯の講 十一月廿七日(金)・廿八日(土)・廿九日(日)
⑰の講 十二月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑱の講 十二月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑳の講 十二月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
㉑の講 十二月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
㉒の講 十二月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
㉓の講 十二月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉔の講 十二月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉕の講 十二月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
①の講 一月二日(金)・三日(土)・四日(日)
②の講 一月六日(金)・七日(土)・八日(日)
③の講 一月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
④の講 一月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
⑤の講 一月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑥の講 一月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑦の講 一月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑧の講 一月三十日(金)・三十一日(土)・二月一日(日)
⑨の講 二月三日(金)・四日(土)・五日(日)
⑩の講 二月七日(金)・八日(土)・九日(日)
⑪の講 二月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日)
⑫の講 二月十五日(金)・十六日(土)・十七日(日)
⑬の講 二月十九日(金)・二十日(土)・二十一日(日)
⑭の講 二月廿三日(金)・廿四日(土)・廿五日(日)
⑮の講 二月廿七日(金)・廿八日(土)・廿九日(日)
⑯の講 三月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑰の講 三月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑱の講 三月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
⑲の講 三月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
⑳の講 三月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
㉑の講 三月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉒の講 三月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉓の講 三月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
①の講 四月二日(金)・三日(土)・四日(日)
②の講 四月六日(金)・七日(土)・八日(日)
③の講 四月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
④の講 四月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
⑤の講 四月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑥の講 四月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑦の講 四月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑧の講 四月三十日(金)・五月一日(土)・二日(日)
⑨の講 五月四日(金)・五日(土)・六日(日)
⑩の講 五月八日(金)・九日(土)・十日(日)
⑪の講 五月十二日(金)・十三日(土)・十四日(日)
⑫の講 五月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日)
⑬の講 五月二十日(金)・二十一日(土)・二十二日(日)
⑭の講 五月廿四日(金)・廿五日(土)・廿六日(日)
⑮の講 五月廿八日(金)・廿九日(土)・三十日(日)
⑯の講 六月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑰の講 六月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑱の講 六月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
⑲の講 六月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
⑳の講 六月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
㉑の講 六月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉒の講 六月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉓の講 六月廿九日(金)・三十日(土)・七月一日(日)
①の講 七月五日(金)・六日(土)・七日(日)
②の講 七月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
③の講 七月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
④の講 七月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
⑤の講 七月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
⑥の講 七月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
⑦の講 七月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
⑧の講 八月二日(金)・三日(土)・四日(日)
⑨の講 八月六日(金)・七日(土)・八日(日)
⑩の講 八月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
⑪の講 八月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
⑫の講 八月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑬の講 八月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑭の講 八月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑮の講 八月三十日(金)・三十一日(土)・九月一日(日)
⑯の講 九月四日(金)・五日(土)・六日(日)
⑰の講 九月八日(金)・九日(土)・十日(日)
⑱の講 九月十二日(金)・十三日(土)・十四日(日)
⑲の講 九月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日)
⑳の講 九月二十日(金)・二十一日(土)・二十二日(日)
㉑の講 九月廿四日(金)・廿五日(土)・廿六日(日)
㉒の講 九月廿八日(金)・廿九日(土)・三十日(日)
㉓の講 十月二日(金)・三日(土)・四日(日)
①の講 十月六日(金)・七日(土)・八日(日)
②の講 十月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
③の講 十月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
④の講 十月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑤の講 十月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑥の講 十月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑦の講 十月三十日(金)・三十一日(土)・十一月一日(日)
⑧の講 十一月三日(金)・四日(土)・五日(日)
⑨の講 十一月七日(金)・八日(土)・九日(日)
⑩の講 十一月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日)
⑪の講 十一月十五日(金)・十六日(土)・十七日(日)
⑫の講 十一月十九日(金)・二十日(土)・二十一日(日)
⑬の講 十一月廿三日(金)・廿四日(土)・廿五日(日)
⑭の講 十一月廿七日(金)・廿八日(土)・廿九日(日)
⑮の講 十二月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑯の講 十二月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑰の講 十二月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
⑱の講 十二月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
⑲の講 十二月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
⑳の講 十二月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉑の講 十二月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉒の講 十二月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
㉓の講 一月二日(金)・三日(土)・四日(日)
①の講 一月六日(金)・七日(土)・八日(日)
②の講 一月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
③の講 一月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
④の講 一月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑤の講 一月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑥の講 一月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑦の講 一月三十日(金)・三十一日(土)・二月一日(日)
⑧の講 二月三日(金)・四日(土)・五日(日)
⑨の講 二月七日(金)・八日(土)・九日(日)
⑩の講 二月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日)
⑪の講 二月十五日(金)・十六日(土)・十七日(日)
⑫の講 二月十九日(金)・二十日(土)・二十一日(日)
⑬の講 二月廿三日(金)・廿四日(土)・廿五日(日)
⑭の講 二月廿七日(金)・廿八日(土)・廿九日(日)
⑮の講 三月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑯の講 三月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑰の講 三月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
⑱の講 三月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
⑲の講 三月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
⑳の講 三月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉑の講 三月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉒の講 三月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
㉓の講 四月二日(金)・三日(土)・四日(日)
①の講 四月六日(金)・七日(土)・八日(日)
②の講 四月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
③の講 四月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
④の講 四月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑤の講 四月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑥の講 四月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑦の講 四月三十日(金)・五月一日(土)・二日(日)
⑧の講 五月四日(金)・五日(土)・六日(日)
⑨の講 五月八日(金)・九日(土)・十日(日)
⑩の講 五月十二日(金)・十三日(土)・十四日(日)
⑪の講 五月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日)
⑫の講 五月二十日(金)・二十一日(土)・二十二日(日)
⑬の講 五月廿四日(金)・廿五日(土)・廿六日(日)
⑭の講 五月廿八日(金)・廿九日(土)・三十日(日)
⑮の講 六月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑯の講 六月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑰の講 六月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
⑱の講 六月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
⑲の講 六月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
⑳の講 六月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉑の講 六月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉒の講 六月廿九日(金)・三十日(土)・七月一日(日)
㉓の講 七月五日(金)・六日(土)・七日(日)
①の講 七月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
②の講 七月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
③の講 七月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
④の講 七月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
⑤の講 七月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
⑥の講 七月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
⑦の講 八月二日(金)・三日(土)・四日(日)
⑧の講 八月六日(金)・七日(土)・八日(日)
⑨の講 八月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
⑩の講 八月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
⑪の講 八月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑫の講 八月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑬の講 八月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑭の講 八月三十日(金)・三十一日(土)・九月一日(日)
⑮の講 九月四日(金)・五日(土)・六日(日)
⑯の講 九月八日(金)・九日(土)・十日(日)
⑰の講 九月十二日(金)・十三日(土)・十四日(日)
⑱の講 九月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日)
⑲の講 九月二十日(金)・二十一日(土)・二十二日(日)
㉑の講 九月廿四日(金)・廿五日(土)・廿六日(日)
㉒の講 九月廿八日(金)・廿九日(土)・三十日(日)
㉓の講 十月二日(金)・三日(土)・四日(日)
①の講 十月六日(金)・七日(土)・八日(日)
②の講 十月十日(金)・十一日(土)・十二日(日)
③の講 十月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
④の講 十月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
⑤の講 十月廿二日(金)・廿三日(土)・廿四日(日)
⑥の講 十月廿六日(金)・廿七日(土)・廿八日(日)
⑦の講 十月三十日(金)・三十一日(土)・十一月一日(日)
⑧の講 十一月三日(金)・四日(土)・五日(日)
⑨の講 十一月七日(金)・八日(土)・九日(日)
⑩の講 十一月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日)
⑪の講 十一月十五日(金)・十六日(土)・十七日(日)
⑫の講 十一月十九日(金)・二十日(土)・二十一日(日)
⑬の講 十一月廿三日(金)・廿四日(土)・廿五日(日)
⑭の講 十一月廿七日(金)・廿八日(土)・廿九日(日)
⑮の講 十二月一日(金)・二日(土)・三日(日)
⑯の講 十二月五日(金)・六日(土)・七日(日)
⑰の講 十二月九日(金)・十日(土)・十一日(日)
⑱の講 十二月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日)
⑲の講 十二月十七日(金)・十八日(土)・十九日(日)
⑳の講 十二月廿一日(金)・廿二日(土)・廿三日(日)
㉑の講 十二月廿五日(金)・廿六日(土)・廿七日(日)
㉒の講 十二月廿九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)
㉓の講 一月二日(金)・三日(土)・四日(日)

●まることダイヤル●
黒住教機関誌「日新」
1冊150円/年間12冊1800円
お申込は教会所まで。

黒住教ホームページ
教祖神・教えと実践・教団の歴史・活動・書籍など
086-284-1111
kurozumikyo.com

「歩めずる心をもつて

ここ数年、黒住教本部神道山へお問い合わせの多かった悩み事、相談事の中より、大教殿司教がご質問にお答えいたします。

【質問】会社の同僚とお付き合いをしています。その付き合いも結構長くなりますが、なかなか結婚に踏み切れません。その理由の一つは、占いに凝っている私の親友から、「二人は相性が良くないから結婚しても苦労ばかりですよ」と言われたからです。(Y・N)

【お答え】昔は、結婚するとき二人の相性のことがよく言われましたが、今の時代でも言われるのですね。お見合いなどで断るときに、相性が合わないといえども、あまり相手を傷つけないで済むのでよく使われたという話を聞いています。生まれ年、生まれ月、また星座でいろいろな相性の見方がありますが、細かく調べたことはありませんが、すべての面で相性が合う人同士が結婚しているとはかぎりません。むしろ相性が悪いカップルで幸せになっている場合もあるし、反対に相性がまことに良い場合でも、離婚している場合もあるのです。



最近面白い話を聞きました。相性の悪い人と結婚した方が幸せになっているケースが多いというのです。お互い人間は心を磨くために生まれてきているのですから、人間関係において、正しいと思う人が「歩めずる心」を持つようにつとめることが大切です。相性の悪い夫婦なら余計に譲り合わなければ結婚生活が成り立ちませんので、その方

がかえって丸く収まり、心を豊かに幸せになるといいます。これから結婚する若い人たちに考えてもらいたいことは、相手から何もかもしてもらう、幸せにしようという考えではなく、相手とのために何かしてあげようという気持ちが大切で、そうでなかったら決して幸せのレールにはのれません。好きな人と生活を築くなら、それは苦労ではなくて楽しい生活であるはずですが、相手を思いやる気持ちがお互いにあるならば、相性がすべてびつたりの人よりも、かえってうまくいくでしょうし、うまくいけばそれが本当の意味で相性が良いことになるのです。

【質問】私は、心配性で何事においても消極的です。積極的な人を見ていとうらやましくして仕方ありません。(M・O)

【お答え】今の性質を変えるのは、貴方の心掛け次第です。最近、旅行で飛行機を利用する方が増えていますが、中には飛行機が嫌いという人がいます。そういう人は、飛行機が落ちたらと、万が一の事ばかり考えていますから、飛行機旅の快適さを味わえません。飛行機が一番事故に遭う確立が少なくないと申します。落ちると生存率が低いから怖いのでしょうか、車よりも事故の確率は少ないのです。事故が起きる前から不安がるような人生では面白くも楽しくもないはずですが、飛行機がどうしても嫌なら新幹線や車という手段もあります。人生は貴方自身の足で歩いていかなければなりません。その時不安なところばかり考えたり、心配しなから歩いていったのでは苦しいだけです、心配する心が心配事を

今日只今を大切に生きる

呼ぶのです。教祖様は「取り越しの苦労をすな」とみ教えです。今日只今を大切に生きることです。明日の朝から、起きると東の空に向かいお日様に手を合わせ、自分の心は昇るお日様のように積極的になった、有り難いと声に出して、拍手を打つてみて下さい。毎朝顔を洗ったり、ご飯を食べるように、生命の元である天照大御神様にご挨拶(敢えてお祈りとは言いませんが)することを生活の一部にしてみませんか。それが日々できるようになれば、次に月に一度の教会所のついたち御日拜に、また少なくとも年に一度は神道山のお日の出に参拝しましょう。必ず積極的になれます。

まず、「御しるし」の拝戴を

黒住教の教えが記された教書に「辰巳の平上」という名前が出てきます。その辰巳の平上さんの子孫筋に、岡山県選出の亀山孝一という代議士がいました。高潔な政治家として知られ、ご先祖との関係もあり、教団本部とも御縁の深い方でした。その

理想の夢都市も、現在はお年寄りばかり目につく町で、いわば「限界アパート」が増えてきて、孤独死のニュースが時々問題になってきているとのことでした。宗教的情操があまり感じられないコンクリートジャングルは、精神的によりよく生きる場所ではないかもしれません。宗教的施設が近所にならなければ、コンパクトに設計された住宅やアパートでは、御神前をまたご先祖様を祀るスペースを考えていない場合がほとんどです。

亀山代議士は、前尾繁三郎氏(元衆議院議長)の派閥に属している、比叡山の延暦寺を会場に開かれ、後に総理大臣になった政治家も参加しており、経済界からまた、各界で活躍している錚々たる人たちが講師として招かれていました。テレビを通してみる人たちが、目の前で力を

本教黒住教にご縁のある方で、親元を離れてお住まいの方は、せめて「御しるし」(正式な御神前に代わるものではありませんが、毎日手を合わせることでできる御三神(天照大御神・八百万神・教祖宗忠大神)の木札と台座)を拝戴して、手を合わせる習慣を身に付けていないと、ただ単なる生活環境だけの問題だけではなく、生きることに意味すら忘れさせてしまうのではないかと考えさせられることです。(教学局長 黒住信彰)

あれから四十年、最近千里ニュータウン近くに勤めていた人に聞いた話ですが、かつての



この「御しるし」は、所属教会所を通してお求め下さい。

《近刊紹介》

副教主様著「道端感謝」

「豊かな心は「気づき」から」

本年一月一日の佳日、副教主様のご執筆による「道端感謝」豊かな心は「気づき」から」が日新社から発行されました。副教主様は、前書きの中にもあります、道端に咲いている野花の美しさに気づくように、日常の「あたりまえ」に「ありがとう」と言える自分づくりを目指して、人と人との「生き方の基本」を見直すきっかけにしてほしいとの願いをこめて小学校高学年からお孫さんのいらつしやる方までご理解いただけるよう平易な文体で上梓されました。

近年、親や先祖はもとより、す



べてのものに感謝するという、日本人本来の精神が失われてきています。そこで、この二十一世紀をよりよく生きるための「生き方の基本」を同冊子に込められました。「特に、お道づれのお子様、お孫さま世代にお読みいただきたい」と副教主様は切望されています。また昨春発行の副教主様著「道の緒」開運のためのキーワード(日新社発行)と、ぜひとも併せて拝読するようにお勧め下さい。「道の緒」サブタイトルの通り、「開運のためのキーワード」を、教祖神の御教えを引用して今日的に分かりやすくお説き明かし下さっています。

両冊子とも教祖神の御教えを通して、わが国の伝統に根ざした「道を知っていたら、端緒(きつかけ)」としてお勧めします。御道信仰の日が浅い方、またお道づれに限らず広く一般の方々にとつても読みやすい内容となっております。

お求めになりたい方は、両冊子とも黒住教本部布教課までお申し出下さい。
●頒価ともに一冊 100円(送料実費 701-1212)
岡山市北区尾上神道山 黒住教本部 布教課
☎(086)284-1213
☎(086)284-1214
☎(086)284-1215